

令和3年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人神奈川芸術文化財団	
施 設 名	神奈川県立県民ホール（本館・KAAT 神奈川芸術劇場）	
助 成 対 象 活 動 名	あらゆる人々が集う場・神奈川県立県民ホール	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	57,349	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図 (概念図)

(事業名)

あらゆる人々が集う場・神奈川県立県民ホール

神奈川県立県民ホールを、あらゆる人々が集う、共生・創造・鑑賞の場に！

アウトカムⅠ

県立県民ホール及び地域の魅力が高まり、地域が活性化する。

アウトカムⅡ

より広範な人々の来館が促され、将来の舞台芸術のファンが育つ。

アウトカムⅢ

県民の文化芸術への理解・関心が深まる。

アウトカムⅣ

将来の劇場・音楽堂を担う人材が育つ。

アウトカム

アウトプット

- 1) 良質で魅力ある作品群の上演による、バラエティ豊かな鑑賞機会の年間を通じた実施
- 2) 舞台芸術に親しみのない人々に対する、体験や学びの機会の創出
- 3) 観客が芸術文化の多様性に触れる企画の実施
- 4) 専門人材育成プログラムの実施
- 5) 年齢や障がいの有無等に関係なく、“あらゆる人々”が文化芸術活動に参加する機会の創出

アクション

1. 創造に挑む	2. 感動を分かち合う	3. つねに考える	4. 未来につなぐ
<p><音楽分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ・革新性や現代的視点を持つオペラ・バレエ公演の企画・制作 [例]共同制作オペラ(※成果とニーズ、社会状況の分析の上、企画する) ・実験的な室内楽演奏会の企画・制作 [例]一柳芸術総監督プロデュース室内楽公演 <p><演劇・舞踊分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ・演劇、ミュージカル、ダンスなどの新作公演の企画・制作 [例]長塚芸術監督演出作品、新作戯曲委嘱、上質な海外戯曲の上演、日本戯曲の再発見、KAATダンスシリーズ、古典の再解釈・再創造 <p><共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽・演劇それぞれの芸術総監督・芸術監督の協働による企画の実施 ・音楽・演劇・舞踊・美術等のジャンルを横断した企画の実施 	<p><音楽分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ・良質なオペラ作品を、身近な場所で鑑賞できる企画の実施 [例]県域巡回オペラ ・初めて劇場・音楽堂を訪れる方々も気軽に芸術文化の一端に触れる機会となる企画の実施 [例]オープンシアター ・鍵盤音楽の入門編的コンサートの実施 [例]パイプオルガンコンサート、バロック鍵盤音楽の魅力 <p><演劇・舞踊分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇場の枠組みを飛び出し、演劇を広く届ける企画の実施 [例]「タニノクロウ新作」(県民参加企画)、県内巡回公演「冒険者たち」、KAATフレンドシッププログラム(アトリウムでの実演、参加型プログラム等) ・キッズプログラムの企画・制作 [例]KAATキッズプログラム <p><共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・多言語化、バリアフリー化等のインクルーシブの取組み ・多くの方が楽しめるエンターテインメント作品の上演 (※助成対象外事業として実施) 	<p><演劇・舞踊分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的なネットワーク構築のための企画の実施 [例]YPAM2021 ・多様な価値観、美意識の提示 [例]YPAM2021 <p><人材養成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作の可能性を探る企画の実施 [例]「カイハツ」プロジェクト、音楽分野におけるアソシエイト・アーティストの新設 <p><普及啓発></p> <ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術の鑑賞を助け、理解と共感を深めるような講座やレクチャーの実施 [例]各種普及講座 	<p><人材養成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国・地域の劇場・音楽堂の専門人材のスキルアップの機会の提供 [例]人材育成講座(バリアフリー講座、舞台技術講座) ・将来の劇場・音楽堂を担う専門人材の育成 [例]インターンシップ、大学連携・インクルーシブの取り組みを担う人材の育成 [例]情報保障を取り込んだ作品制作の可能性を探るWS ・劇場間、関連団体とのネットワーク構築 [例]劇場間人材交流

※1つ1つのアクションは、複数のミッションを横断的に持つものもあるが、主なミッションのところに分類

インプット

<ul style="list-style-type: none"> ・芸術総監督・芸術監督・芸術参与の関与による芸術性の担保 ・音楽事業部長・演劇事業部長による事業の統括と、音楽分野・演劇分野の協働 ・音楽・演劇・舞踊分野におけるアーティストやクリエイター、関連団体、劇場・音楽堂とのネットワーク ・専門人材の確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・県域(特に政令指定都市以外)の文化施設とのネットワーク ・横浜市との連携 ・近隣地域との密接な関係 ・県福祉関係部署、教育団体、福祉関連団体との連携 ・バリアフリー、多言語化等に取組む団体との協力関係 	<ul style="list-style-type: none"> ・財政基盤の確保(安定的な利用料収入、外部資金(助成金、寄付・協賛金)、収益事業(駐車場等)収入の確保) ・安定的な雇用の確保、人材育成 ・法人としてのコンプライアンス遵守の推進 ・ミッションに基づいた事業計画 ・事業継続のための適切な事業予算計画とチケット収入増への取組み
--	---	---

(2) 令和3年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	I 創造に挑む 一柳慧 プロデュース 室内楽公 演 CxC Composer's Journey (作曲家が作曲家 を訪ねる旅)	①2021年11月6日 ②2022年1月8日	①山本裕之×武満徹(没後25年) ②川上統×サン＝サーンス(没後 100年)	目標値	640
		本館 小ホール		実績値	580※
2	I 創造に挑む 「近 松心中物語」	2021年9月4日～9月 20日	作：秋元松代、演出：長塚圭史 出演：田中哲司／松田龍平、笹本玲 奈／石橋静河	目標値	8,925
		芸術劇場 ホール		実績値	8,187※
3	I 創造に挑む 「湊横濱荒狗挽歌～新 粧、三人吉三。」	2021年8月27日～9 月12日	脚本：野木萌葱、演出：シライケイ タ 出演：玉城裕規、岡本玲、森優作、 渡辺哲、山本亨、ラサール石井	目標値	2,880
		芸術劇場 大スタジオ		実績値	2,134※
4	I 創造に挑む 「K A A Tダンスシリーズ 2021 <Dance Dance Dance@YOKOHAMA>新作ク リエーション」	①2021年9月23日～ 9月26日 ②2021年10月16日 ～10月17日	①「エリア50代」 ②「Noism Company Niigata × 小 林十市 A JOURNEY～記憶の中の 記憶へ」	目標値	1,482
		①芸術劇場 大スタジオ ②芸術劇場 ホール		実績値	502※
5	I 創造に挑む 「Th e Vacuum Cl eaner」	2021年11月27日～ 12月12日 ※	※新型コロナウイルス感染症拡大防 止のため中止	目標値	2,560
		芸術劇場 中スタジオ		実績値	—※
6	I 創造に挑む 「ラビ ットホール」	2022年2月23日～3 月6日 ※	脚本：デヴィッド・リンゼイ・アベ アー、脚色：篠崎絵里子、演出：小 山ゆうな 出演：小島聖 田代万里生 占部房 子 新原泰佑 木野花	目標値	2,430
		芸術劇場 大スタジオ		実績値	2,199※
7	II 感動を分かち合う オープンシアター2021 ①音楽でめぐる世界の旅 ガラコンサート ②オル ガンとカウンターテナー のハーモニー	2021年5月30日	①出演：上野正博、宮本益光他 ②出演：都築由理江、村松稔之	目標値	2,918
		①本館 大ホール ②本館 小ホール		実績値	1,553※

8	Ⅱ 感動を分かち合う オルガン・コンサートシリーズ	2021年10月～2022年 2月	①オルガン・リサイタルシリーズ ②オルガン・クリスマスコンサート ③オルガン・プロムナード・コンサート	目標値	2,240
		本館 小ホール		実績値	1,731※
9	Ⅱ 感動を分かち合う バロック鍵盤音楽の魅力	2022年3月26日	バロック鍵盤音楽の魅力シリーズ 出演：大塚直哉、宮田まゆみ、鈴木美登里、中山美紀	目標値	480
		本館 小ホール		実績値	330※
10	Ⅱ 感動を分かち合う 「虹む街」	2021年6月6日～20 日	作・演出：タニノクロウ 出演：安藤玉恵、金子清文、緒方晋、 島田桃依、タニノクロウ、蘭妖子	目標値	945
		芸術劇場 中スタジオ		実績値	1,907※
11	Ⅱ 感動を分かち合う 「KAATキッズ・プログラ ム2021『ククノチ テク テク マナツノ ボウケ ン』」	2021年7月12日～19 日	振付：北村明子、美術：大小島真木 出演：柴一平、清家悠圭、岡村樹、 黒須育海、井田亜彩実、永井直也	目標値	1,282
		芸術劇場 大スタジオ		実績値	1,068※
12	Ⅱ 感動を分かち合う 巡回オペラ みんなでた のしむオペラ「ヘンゼルと グレーテル」	①2021年7月17日 ②2021年7月24日	オペラ「ヘンゼルとグレーテル」日 本語上演 構成・演出：田尾下哲 出演：岡本知高、宮本益光、鶴木絵 里、青木エマ	目標値	900
		①海老名市文化会館 ②横須賀芸術劇場		実績値	822※
13	Ⅱ 感動を分かち合う 「県内巡回公演『冒険者 たち』」	2022年2月8日～3月 19日	上演台本・演出：長塚圭史 共同演 出：大澤遊 出演：柄本時生 菅原永二 佐々木 春香 長塚圭史 成河	目標値	960
		芸術劇場 中スタジオ 他県内会場3カ所		実績値	2,879※
14	Ⅱ 感動を分かち合う 「KAATフレンドシップ プログラム」	2021年11月～2022 年3月※	①鑑賞型プログラム 朗読「風の 琴」 ②定期開催劇場ツアー	目標値	1,000
		芸術劇場		実績値	267※
15	Ⅲ つねに考える 「YPAM2021 横浜国 際舞台芸術ミーティン グ」	2021年12月1日～ 19日	ヤン・ジェン『Jasmine Town』他	目標値	2,267
		芸術劇場 ほか横浜市内施設		実績値	1,738※
16	Ⅲ つねに考える 「カイハツプロジェク ト」	2021年9月～2022年 3月	①作品カイハツ ②企画・人材カイハツ ③戯曲カイハツ	目標値	50+α
		芸術劇場 アトリエ		実績値	92

17	Ⅲ つねに考える 普及講座 ①舞台芸術講座 (オルガン講座) ②舞台芸術講座 (名作オペラ講座)	①2022年2月20日、3月6日、2022年3月21日 ②2021年9月25日	①舞台芸術講座 オルガン「フーガの技法」～謎と魅力(全3回) ②舞台芸術講座 青島広志の「もっと知りたい!創造する女性!」	目標値	600
		①本館 大会議室、小ホール ③本館 小ホール		実績値	748
18	Ⅳ 未来につなぐ「情報保障を取り込んだ作品制作の可能性を探るワークショップ」	2022年1月～3月	・インクルーシブな創作についてのグループワーク(計15回) ・上演&トークをオンラインにて映像配信	目標値	150
		オンライン配信 ※		実績値	14※
19	Ⅳ 未来につなぐ「人材育成講座」	2021年9月～2022年3月 ※	①舞台技術講座 ②バリアフリー講座～シリーズ「これからのインクルーシブ社会と公立文化施設の取り組み」～	目標値	140
		芸術劇場、横浜中区社会福祉協議会		実績値	80※
20	Ⅳ 未来につなぐ「インターンシップ 音楽制作、演劇制作、舞台技術」	2021年11月～2022年3月 ※	①公演制作(音楽) ②公演制作(演劇) ③舞台技術	目標値	15～20
		芸術劇場、本館		実績値	8※
21	Ⅳ 未来につなぐ「大学連携企画」	2021年11月～2022年3月	①KAAT×YNU 横浜国立大学 連携講座「芝居の大学」 ②東京音楽大学との連携事業「東京音楽大学 Act Project」 ③昭和音楽大学	目標値	130
		芸術劇場、本館、昭和音楽大学、オンライン配信		実績値	224

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。</p> <p>○神奈川県の特産品劇場として、神奈川県立県民ホールに掲げる4つのミッション「創造に挑む」「感動を分かち合う」「つねに考える」「未来に繋ぐ」を明確に踏まえた事業展開を行った。</p> <p>○当事業計画においては、令和3年度からの5年間において、神奈川県立県民ホールが目指す最終アウトカム「神奈川県立県民ホールを、あらゆる人々が集う、共生・創造・鑑賞の場に」を発現させることに取り組んでおり、初年度となる令和3（2021）年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に配慮し、ウィズ・コロナに即した方法を模索しながら、全体的には計画通りに事業計画を進めることができたと考える。</p> <p>○一方で、個々の事業においては新型コロナウイルス感染症の影響が継続しており、令和3年度も1事業が中止となり、一部の事業で公演回数の減少、オンライン配信への変更、企画内容変更等が生じたほか、多くの公演事業において収容人数を減らして実施することとなった。</p> <p>○新型コロナウイルスの影響は今後も続くものと想定されるが、県民への芸術文化の提供を第一に考え、中止ではなく、配信等の補助手段を含め、ウィズ・コロナに即した方法を取り入れていきたい。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>○文化的意義</p> <p>ミッション「創造に挑む」の事業は、創造性の高い事業を実施することによる新規顧客の拡大を図るものであり、令和3（2021）年度は、音楽事業では一柳芸術総監督の監修による「C×C Composer's Journey（作曲家が作曲家を訪ねる旅）」（以下「C×C」）、演劇事業では、長塚芸術監督演出の「近松心中物語」のほか「湊横濱荒狗挽歌～新粧、三人吉三。」「ラビットホール」等を創作して上演した。これらの公演は音楽や演劇の評論にも取り上げられ一定の評価を得ており、芸術文化の水準の向上に寄与したと考えられる。</p> <p>○社会的意義</p> <p>「オープンシアター2021」は本事業の特徴である多言語対応、手話通訳、楽器見学、バックステージツアーといった取組を感染対策を万全にして実施し、コロナ禍においても開放的な雰囲気醸成しながら地域へ劇場を開き、地域のにぎわいの創出に寄与した。また、「KAAT フレンドシッププログラム」は外から歩く人々からも見えるKAAT アトリウムを中心にプログラムを展開し、劇場が地域にとっての「広場」の役割を担うことを意図した事業であり、バックステージツアーやアトリウムでの体験型展示等を定期的実施し、劇場の社会的役割を見出すことができた。そのほか、「近松心中物語」「ラビットホール」における字幕鑑賞サポートの設置、「普及講座」における点字プログラム作成等、誰もが芸術文化を楽しめるためのインクルーシブアプローチにも社会連携ポータル部門を中心に取り組み、地域の芸術文化振興に寄与した。</p> <p>○経済的意義</p> <p>県域の特産品劇場としての取組として、県域巡回オペラ「ヘンゼルとグレーテル」を海老名市、横須賀市にて上演したほか、長塚圭史芸術監督の演出による「西遊記」をベースに「冒険者たち ～JOURNEY TO THEWEST～」を実施し、舞台芸術や劇場にあまり触れたことのない県民にその魅力を届けることができた。これらの巡回公演は、県域全体に良質なコンテンツを届け、地域の文化振興に寄与するだけでなく、その劇場周辺の地域経済にも貢献すると考える。特に「冒険者たち ～JOURNEY TO THE WEST～」では普段KAATに来場する観客が別地域での公演にも来場したことで、広く県内の劇場を紹介する機会にもつながり、また県内各地域の伝承や名所、実在の飲食店等を採り入れた物語にしたことにより、観光や外食等、直接的な経済効果も期待できるものとなったと考える。</p>

(2) 有効性

自己評価			
目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。			
以下の目標を設定し、それぞれに指標を置いた。			
目標【1】 創造性／独自性の高い、魅力的な公演事業の実施により、既存の観客に加え新規の観客を開拓する。	目標【2】 親子向け事業、参加型公演、県域・県外での巡回公演、鑑賞面のバリアフリー化の取組等により、観客層の多様化を図る。	目標【3】 多様な表現を提示し、観客・参加者に新たな視点を提供する。	目標【4】 将来の劇場・音楽堂に必要な、多様で専門性を持った人材を養成する。
対応する指標 ①②③④⑤⑥⑦	対応する指標 ①⑤⑥⑧⑨⑩	対応する指標 ⑨⑪⑬	対応する指標 ①⑫⑬
指標			令和3年度達成状況
①事業実施数（公演事業12事業）（普及啓発事業3～4事業）（人材養成事業5～6事業） ②年間来館者数（53万人） ③主催事業において、初めて本館／KAATを訪れる観客数の割合（25%） ④1年以内の再来場者（リピーター）数の割合（25%） ⑤主催公演への満足度（アンケート満足回答80%以上） ⑥メディアへの露出（事前告知100件、事後告知創造性、独自性の記載あり） ⑦外部評価委員による評価（創造性、独自性の記載あり） ⑧子ども及び若年層向けチケット販売数（2,000枚） ⑨新たな芸術文化体験をした人数の割合（5%） ⑩巡回公演（県域・県外）の実施数及び実施地域の多様化（年間2事業5地域） ⑪参加アーティスト数（40人以上） ⑫人材養成事業への参加者数（280人） ⑬参加者からのフィードバック（分析）			①達成できた ②達成できた ③達成できた ④達成できた ⑤達成できた ⑥達成できた ⑦達成できた ⑧達成できた ⑨達成できた ⑩達成できた ⑪達成できた ⑫未達成だった ⑬達成できた
<p>○目標【1】：すべての指標を達成し、目標は概ね達成されたと考える。特に「C×C」「近松心中物語」は論評においても高い評価を受け、創造性の高い公演となったと考える。</p> <p>○目標【2】：すべての指標を達成し、目標は概ね達成されたと考える。特に子ども向けチケットや青少年向けチケットの販売数は、コロナ禍でありながら目標ラインを達成し、多様な観客を劇場に取り込むことができた。</p> <p>○目標【3】：すべての指標を達成し、目標は概ね達成されたと考える。「カイハツプロジェクト」では、必ずしも上演を目的とせず、様々なワークショップに取り組むことにより、参加者に多角的な視点を与えた。</p> <p>○目標【4】：人材養成事業への参加者数が若干指標に到達しなかったが、目標は概ね達成されたと考える。インターンシップは、今年度からより体系化されたプログラムとなり、「「舞台関係の仕事に就きたい」という漠然とした自分の方向性が、より具体的になった」という意見もあり、効果的なプログラムとなった。</p> <p>○総合的に、概ね指標の達成されたことにより、1～4のそれぞれの目標も概ね達成されたものと考え。創公演の創造性・独自性、観客の多様化、観客や参加者への新たな視点の提供、専門人材の養成プログラム等の要素が有機的に連携し、それぞれのアウトカムおよび最終アウトカム「あらゆる人々が集う、共生・創造・鑑賞の場」の発現に向け、有効性が示されていると考える。</p>			

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

○事業は音楽・演劇の各事業部長を中心に、音楽分野・演劇分野のそれぞれの芸術監督、芸術参与との会議において対話を重ねながら共有し、それを適宜財団の常勤理事による会議（マネジメント会議）で報告、共有することにより財団全体としての方針を構築している。したがって事業期間は適切に管理されており、1年目の行程は概ね計画通りに進行したと考える。

○個別の事業においては、新型コロナウイルスの影響により1事業が中止、また一部に内容変更、規模の縮小等を余儀なくされた事業もあり、事業計画の変更をせざるを得なかった。特に人材養成事業は対面や人的接触を前提としている性質上、コロナ禍において当初の予定通りのプログラムを実施することは困難であり、多くの内容変更や規模変更を余儀なくされる結果となったが、その中においても昨年度に引き続きオンライン配信を取り入れたり、現場体験以外の要素もこれまで以上に取り入れることにより、中止することなく事業趣旨を最大限発揮できるように取り組んだ。

○新型コロナウイルスの影響以外でも、個別事業（特に演劇分野）の一部において、事業期間やキャストの変更、要望時に内容の一部が未定だったものがあつた。これらは事業を創作する進行の過程において、計画の見直しが生じたことや、演出プランが徐々に決まっていたことが主な要因であるが、当初計画の趣旨に齟齬が生じることなく、事業実施の効果が最大限に高まるよう取り組んだ。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

○令和3年度事業費 当初支出 271,634千円、決算支出 199,993千円 予算決算差異 71,641千円 (-26.4%)

○令和3年度は新型コロナウイルスの影響により1事業が中止、また一部に内容変更、規模の縮小等を余儀なくされた事業もあり、事業費および収支計画も変更をせざるを得なかった。そのような状況下においても、感染対策の徹底やオンライン配信をはじめ、様々な取り組みを行った。客席の収容人数を減らしたことにより、収入も減少したが、事業規模の見直しや支出の抑制を行うとともに、他の助成金・補助金等も積極的に活用し、財政的な安定の確保に努めた。

○また、巡回ツアーを伴う一部の公演で、陽性者発生等による突発的な公演中止が生じたため、ツアー先と包括的な契約を行っていた出演費や舞台費の一部に契約変更が生じ、要望時と比べ支出が大幅に抑制されたものがあつた。また同じ事情で事業期間が2022年2月～3月の公演では、出演料等の額が期日（3月下旬）までに確定せず、一部経費が計上できていないことにより、助成対象経費が要望時と比べ大幅に減少したのもあつた。いずれもコロナ禍における特殊事情と考える。

○新型コロナウイルスの影響以外でも、個別事業（特に演劇分野）の一部において、事業費に変更が生じたものがあつた。これは創造の過程において、計画の見直しや演出プランの確定により事業規模や同一事業内での経費配分の変更等が主な要因であつたが、当初計画の趣旨に齟齬が生じることなく、事業実施の効果が最大限に高まるよう取り組んだ。

○神奈川県立県民ホールの指定管理者である当財団は地方公共団体が100%出資する第3セクターであり、その行政管理の考え方のもと県に準じた透明性の高い基準で運営され、かつ公益法人としての会計基準等に従って運営されている。そのような性格を有する法人による劇場運営のもと、当初の計画に沿って、またコロナの影響等によりやむを得ない変更が生じた場合には必要に応じた手続きのもと計画を変更し、事業を遂行している。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

○芸術総監督及び芸術監督は、神奈川県立県民ホールの指定管理者である財団全体の財政状況、県との指定管理協定の状況、財団における組織的課題などについて、運営責任者である事業部長から随時情報の提供を受け、それを基に、劇場のミッションに照らし合わせて自主事業全体に関する構想を練り、事業部長および各課のリーダーからなる会議においてその構想を議論し、また現場からの意見も取り入れつつ、すべての自主事業の内容（音楽ではラインナップのバランス、出演者、作曲者、曲目等／演劇では演目、クリエイティブリーダー、公演時期、規模）の決定を主導している。それにより、両芸術監督の考える、芸術の果たすべき社会的な役割、観客と共有すべき芸術体験などを強く反映したプログラムの策定が実現できている。

○音楽事業を主とする本館では、一柳慧芸術総監督と、その補佐役である沼野雄司芸術参与が、自主事業全体の指針を示す役割を果たしている。一柳芸術総監督が事業全体の方向性を示し、沼野参与が一柳総監督の意を受けその学識、知見を発揮し事業の具体化への助言指導をおこなっている。

その具体的な効果、影響については、本館小ホールにおける、「Composer、Classic、Contemporary」というキーワードで再構成する「C×…」の取り組みで、従来の事業がブラッシュアップされ、新たに現代音楽への扉を開く企画も加わり、小ホールが現代を生きる室内楽空間として始動したことがあげられる（「C×C」ほか）。

○演劇・舞踊の事業を主におこなう KAAT においては、長塚圭史芸術監督が、劇場の目指すべき姿と自主事業全体について、指針を示し先導する役割を果たしている。長塚は二年間芸術参与を務めた上で、財団の設置した第三者による選定委員会により選任を受け、令和3年度4月に白井昇前芸術監督より芸術監督を受け継いだ。二年間の芸術参与期間を持ったことで、前芸術監督による成果とともに課題を把握することができ、また県域地域の実情や関係団体についても、その概要を理解した上での就任となった。

具体的には、長塚芸術監督の示す指針により、KAAT は、これまでの独自であり先鋭的な作品群の創作発信という成果を受け継ぎつつ、地域・県域とのコミットメントを強く意識し、多様な観客に「ひらかれた」劇場であることを目指したプログラムとなっている（「虹む街」「冒険者たち」「KAAT フレンドシッププログラム」など）。また、シーズン制を取り入れ劇場の活動にリズムを持たせたこと、いわゆるシアターゴウアーだけを対象とするのではないものとして広報誌をリニューアルしたことなども、長塚芸術監督の示した指針に基づくものである。一方、劇作家でもある長塚芸術監督が力を入れる取り組みとして、近現代の日本戯曲の再発見（「近松心中物語」）、新作戯曲上演（「湊横濱荒狗挽歌～新粧、三人吉三。」）、翻訳戯曲をより質の高い日本語上演とする試み（「ラビットホール」）などがあり、独自の創造性を示している。また、長塚芸術監督は人材育成や新たな表現の発見や開発にも意欲的であり、これまで続けてきた取り組みに加え、新たな取り組みを始めることができている。（「カイハツプロジェクト」）

○前述の内容を踏まえ、個別事業において音楽事業では、「C×C」は過去と現代の「作曲家」を引き合わせ、未来へとつながる芸術表現を模索する企画を新シリーズとして実施し、プログラムの監修を作曲家に委ねることで、過去の作曲家との対話を通じて、作曲家自身があらためて自己探求を行い、結果的にそれぞれの作曲家の新たな魅力を紹介するユニークなプログラムとなり、独創性や新規性を示した。また「C×C」に「オルガン・コンサートシリーズ」「バロック鍵盤音楽の魅力」を加えた3事業を「C×（シーバイ）シリーズ」と位置づけ、いずれも「Composer（作曲家）、Classic（古典）、Contemporary（現代）」の要素を一貫して取り入れることにより、室内楽、オルガン、バロックの定番のプログラム構成から脱却し、プログラム構成の独創性を示した。

演劇事業では、「近松心中物語」は、本上演は、良く知られた戯曲の再発見、現代的な読み直しの挑戦、として、注目を浴び、高い評価を受けた。新演出への否定的な意見もあったが、これも新たな試み故の反響であり、独創

性の高い作品への評価であると考える。

また「ラビットホール」では、テレビドラマなどの脚本を手掛ける脚本家に上演台本を依頼し、翻訳戯曲を現代の日本人に響く活きた言葉に磨き上げることにより、リアルな会話で物語が語られることを目指した作品であり、翻訳戯曲を翻訳家と劇作家との共同作業において豊かな日本語の台本としていく新しいスタイルは、先導性を示すものとなったと考える。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

（１）国内での評価

音楽事業では、「普及講座 青島広志の名作オペラ講座」（朝日新聞 9/27 付）、「C×C」（読売新聞 1/21 付）、「バロック鍵盤音楽の魅力」（音楽の友 5 月号）等に記事が掲載され、いずれも演奏や企画内容に高い評価が寄せられ、当該事業の客観的な評価と考える。

演劇事業では「虹む街」（神奈川新聞 6/16 付）、「近松心中物語」（日本経済新聞 9/17 付）、「ラビット・ホール」（朝日新聞 3/3 付）、「冒険者たち」（日経 MJ3/4 付）等に劇評が掲載され、いずれも内容や演出、美術等への的確な指摘は当該事業の客観的な評価と考える。

複数の対象事業において、新聞・専門誌等で劇評が掲載されたことは、神奈川県立県民ホールの事業そのものに対する評価の向上につながっていると考えられる。

（２）地域社会からの評価・期待

県民ホールは 1975 年の開館以来、神奈川県を代表する大型文化施設として県民の方々に親しまれてきたホールであり、エポックメイキングな海外招聘のオペラ・バレエや有名アーティスト等の鑑賞会場としてだけでなく、大きな舞台面を生かした合唱、モダンバレエ、文化賞授賞式や広いギャラリーを使った県美術展など、県民による自主的な文化活動への参加の場であった。その基盤がある上に、当事業計画による創造活動や広域展開の充実が加わり、広域拠点としての活動の充実につながっている。

他方、2011 年に県民ホールと一体運営で設置された KAAT は、当初から劇場法の理念を体現するミッションを掲げた運営を目指してきたが、同様に当事業計画による創造活動や広域展開の充実が実現できたほか、プロフェッショナルな人材育成の場としての役割も広域的に果たすことができた。

その結果、ステークホルダーとの関係としては、設置者である神奈川県からは指定管理者モニタリング評価として A 評価（平成 31 年度、令和元年度、なお令和 2 年度はコロナ禍による閉館等の影響により B 評価）といった高評価を受けているほか、指定管理の活動の成果や充実した機能・人材を生かして、指定管理とは別に、県域の文化資源等の調査業務や、共生社会の実現をテーマにした文化芸術の新しい取り組み「共生共創事業」を 5 年間継続して受託するなど、県民ホール・KAAT に集積された機能を活用していくことを県からも期待されている。

施設が所在する横浜市とは、市が主催する大規模アートフェスティバル（ダンス、音楽、美術）に主体的に参画するなど協力関係にあり、令和 3 年度は「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA」（助成対象事業）における公演の一部を共同で主催したほか、（公財）横浜市芸術文化振興財団、特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センターとともに、「横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）」を共同で主催している（助成対象事業）。これらの連携により、地域からの当劇場の評価は高まっており、また今後も県の文化政策を地域と一体となって担っていくことが期待されている。

(5) 持続性

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

○当事業計画をはじめとする財源の多様化による持続性の強化、指定管理業務のほかに、県の文化芸術に関する委託事業を劇場が有する専門機能を活用するスキームで受託することで、県の文化政策に積極的に参画している。

○支援者の安定的な確保のため、県内企業及び個人を中心に賛助会員組織を運営しているほか、インターネットを通じた小口寄付の仕組みを整備し、寄付者の拡大を図っている。

○設置者（県）が行う専門家による外部評価のほか、法人独自の外部評価の仕組みを整備し、有識者による視察と事業評価を行っている。その上で、外部評価員と劇場スタッフが出席する評価会議を開催し、課題抽出や評価手法の確認、前回会議からの業務改善課題の検証等を行い、さらにその会議結果を次の業務改善につなげている。合わせて、評価会議で劇場・音楽堂等機能強化推進事業の採択や実施結果等についても報告し、その枠組みで期待されるアウトカムの発現等についても総合的な確認を行っている。評価会議の結果は、最終的に理事会へ報告することを義務付けており、トップマネジメントによる継続的な業務改善の取り組みとして定着している。

○雇用及び人事戦略としては、トップマネジメントの強い指導のもと、「働き方改革」に向けた取り組みを開始し、ワークライフバランスの取れた労働環境の創出に努めている。施設あるいは業務（施設管理・事業制作）に固定しがちだった職員を、財団本部を含め、ジョブローテーションを行うことで、財団全体の業務の平準化とノウハウの共有、さらには業務改善に取り組んでいる。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

「(2) 有効性において」、当事業計画における1~4のアウトカムが総合的に発現が望める状態であることから、長期アウトカム「あらゆる人々が集う、共生・創造・鑑賞の場に」が発現できる見込みと考える。

また、これまで神奈川県立県民ホールの各部門がそれぞれ取り組んできた「専門人材育成プログラム」「学校教育へのアプローチ（エデュケーションアプローチ）」「あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ」「地域との連携を強化する機能（県域ネットワークプログラム）」について、これまで培った知識や経験といった機能を集約した部署「社会連携ポータル課」を財団本部に設置した。当事業計画においても、主にミッション「未来へつなぐ」の事業を中心にホール事業担当者と社会連携ポータル担当者が協働して事業に取り組んでおり、その機能をより強化し、また県域の文化施設や他の団体等の社会と芸術をつなげる窓口となることで、事業の持続性がより高まると考えている。

財源や施設の基盤安定に関する取り組み及び関係ネットワークの強化により、当事業計画が持続的に推進され、評価活動および雇用・人事戦略によって改善されていくことにより、あらゆる人々が集う場、共生の場としての劇場の在り方を見据え、今後の活動を継続していきたい。